

過去の展示状況

河井弥八記念館は、平成24年4月から開館していますが、今までに展示させてもらった物で、現在展示されてない物（扁額・掛軸は除く）で主な物は次の通りです。

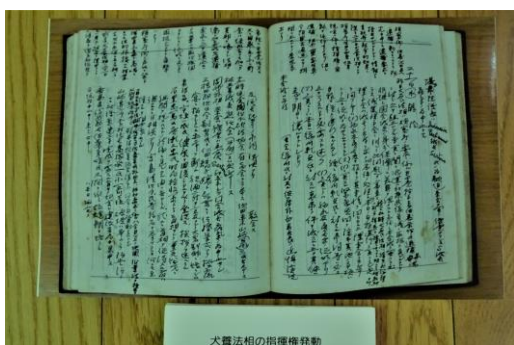
再度展示してほしい物がありましたら、企画委員まで連絡をして下さい。



河井弥八日記の一部

明治35年から昭和35年にわたる日記（一部欠落あり）の内、宮内省時代の日記も含め、終戦前後の日記は、政治史・憲法学・議会史の空白を埋める学術的にも貴重な資料

（掛川市 蔵）



犬養法相の指揮権発動

昭和29年4月 参議院議長

第5次吉田内閣における佐藤栄作自由党幹事長逮捕に対する犬養法相の指揮権発動について詳しく書かれている。

（掛川市 蔵）



シルクハット

儀式用に使用されたシルクハット

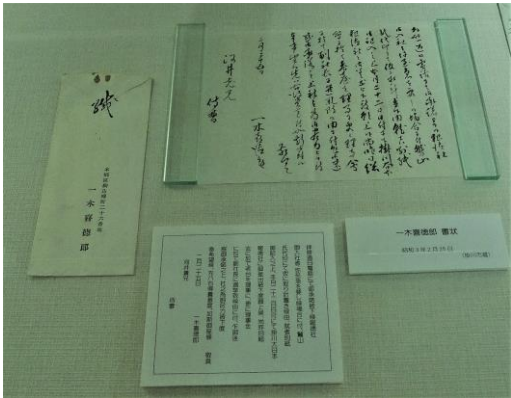
（掛川市 蔵）



靴

儀式用に使用された靴

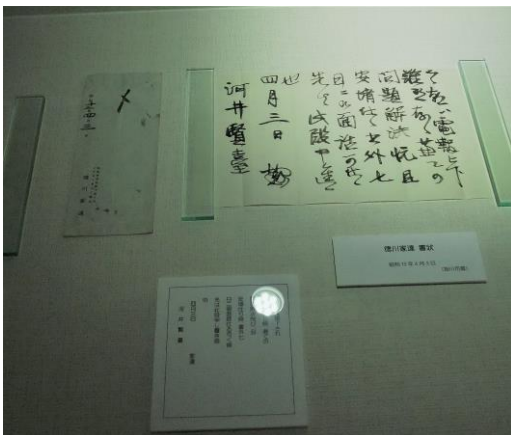
(掛川市 蔵)



一木喜徳郎 書状

昭和3年2月25日

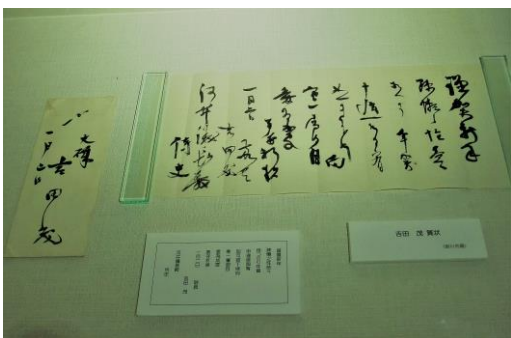
(掛川市 蔵)



徳川家達 書状

昭和13年4月3日

(掛川市 蔵)



吉田 茂 賀状

(掛川市 蔵)



河井弥八と深く関わりのあった人達

青山 士

土木工学の専門家、技術者。パナマ運河建設に関わった唯一の日本人。静岡県磐田の人。

治水砂防協会の赤木政雄や河井弥八と共に視察に同行し、専門的な技術アドバイスを行った。

曾我地区内の小笠山河川流路工改修工事のため、河井弥八と共に現地に視察に来ている。



あきら
青山 士



赤木 正雄



一木 喜徳郎



丸山 方作

赤木 正雄

日本で砂防の重要性をいち早く説いた人。「砂防の父」とよばれる。河井弥八とは共に、昭和22年第1回参議院議員に当選した同期生。

赤木政雄の推進する治水砂防事業に河井は共鳴し、赤木と共に事あるごとに災害地、災害危険地を視察し、共に治水・砂防の重要性を訴えた。河井弥八の功績をたたえて、(社)全国治水砂防協会のロビーには、河井弥八のレリーフが飾られている。

写真提供 (社)全国治水砂防協会

一木 喜徳郎

掛川倉真の出身。大日本報徳社創設岡田良一郎氏の二男。文部大臣、内務大臣、宮内大臣を務める。

河井弥八にとっては、恩のある上司。宮内省時代には、東宮職に引き立てられ、以後侍従次長として共に天皇側近として働く。宮内省退官後は、大日本報徳社社長であった一木喜徳郎に請われて副社長となる。一木喜徳郎亡きあとは、社長を引き継ぐ。

(大日本報徳社 蔵)

丸山 方作

愛知県新城の人。大正12年まで30年間、愛知、静岡両県の農事巡回技師として農業技術の普及指導に尽力。昭和10年から38年まで、大日本報徳社の講師となる。河井弥八とは、戦前戦後の食糧難の時代を共に籍を置く。河井弥八は、この時期、丸山方作の持っている技能と実績を活かして、「丸山式甘藷栽培法」の普及と増産運動を展開した。

二人は共に中心となって、終戦前後の食糧危機打開に大きく貢献する仕事をした。

(写真提供 新城図書館)

徳川 家達

徳川家第16代当主。 貴族院議長を30年務める。

この間、河井弥八は、徳川家達のもとで貴族院書記官、書記官長を務める。河井弥八の有能ぶりを評価し、信任が厚かった。終世深い繋がりを持つ。

(写真は若き日の徳川家達)



いえさと
徳川 家達

河井弥八書の記念碑



河井弥八書の記念碑について

河井弥八揮毫の『掛軸・扁額』については、当館では、これまでに市内外の所有者からお借りして展示してきた。

その他河井弥八書の『記念碑』についても調べてみると、県下各地に存在することがわかり、実施調査をした。

内容は、英霊を祀る『慰霊碑・忠魂碑』が多く、その外、『砂防関係碑や御料林払下げ碑』もある。

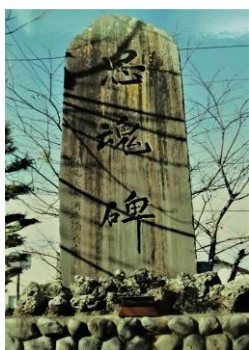
『慰霊碑・忠魂碑』について見ると、日中戦争・太平洋戦争で戦没された方々を慰霊する碑であり、揮毫者の名は、「参議院議長河井弥八（書）」となっているものが多い。

河井弥八がどういう理由で、慰霊碑の揮毫に関わったのか不明だが、単なる参議院議長と言うだけでなく、戦没者に尊崇の念を強く抱いている人間としての評価があつての依頼を受けたのであろうか。



『遺芳千載傳』

所在 菊川市河城小学校



『忠魂碑』

所在 掛川市千浜小学校



『忠魂塔』

所在 浜松市天竜区上阿多古小学校



『偉業千載傳』

所在 掛川市板沢山



『忠魂碑』

所在 御前崎市新野八幡神社



『忠魂碑』

所在 掛川市富士見霊苑



『護國之碑』

所在 静岡市高部公民館



『有備則無患』

所在 川根本町徳山 川根高校南



花 器

鯉図柄花器

(掛川市蔵)



蝶の舞姫人形

この気品に満ちた可愛らしい人形は、昭和天皇・香淳皇后の第一皇女（今生天皇、常陸宮正仁親王の長姉）に当たる照宮成子内親王（てるのみやしげこないしんのう）の愛好していたものである。箱の裏側に、照宮成子内親王のお印である「紅梅」の文字が書かれている。

蝶の舞姫人形が、河井弥八に、照宮成子内親王より下賜されたことが『昭和初期の天皇と宮中・侍従次長河井弥八日記』第6巻、昭和7年9月17日の条に記されている。

それによると「…略…照宮殿下（成子内親王）に拝謁す。殿下より蝶舞人形一対及び御手筈を賜る。」とある。

河井弥八は、昭和2年侍従長兼皇后宮太夫を拝命してから昭和7年に至るまで、皇后や呉竹寮でお住まいの内親王たちのお世話をしてきた。特に、内親王の養育についての責任者であった事もあり、帝室会計審査局長官へ転任に際して、ご挨拶に伺った。その折、照宮殿下より、愛好していた人形をお礼として河井弥八に贈られた。

宮中では、自分の愛用品をこのような離別の時に、親しい人や世話になった人に下賜する習慣があるという。

(河井家蔵)



帽子

儀式用に使用された帽子

(掛川市蔵)



昭和天皇（裕仁）直筆の証書

大正天皇は大正15年12月に亡くなられ、皇太子であった裕仁殿下が皇位を継ぐこととなった。

喪の明けた昭和3年11月に正式に天皇となったことを内外に知らせる大礼即位式が京都で行われた。

河井弥八は、当時天皇の側近の侍従次長の職にあり、この準備のため昭和2年に「大礼準備委員」を仰せ付けられ、式典の準備万端を期して活動した。

この功績により戴いた「勲二等旭日重光章」授与の証書である。

(掛川市教育委員会 蔵)



昭和天皇（裕仁）直筆署名の証書 勲一等及び瑞宝章授与証書

河井弥八は、貴族院書記官、書記官長を務め、皇室関係にあつては東宮職・侍従次長・帝室会計審査局長官を拝命し、長年に渡り国家に貢献した。

帝室会計審査局長官を辞した後の昭和9年に、その功績により上記が授与された。

現在、瑞宝章の現物が残っていないのが残念である。

(掛川市教育委員会 蔵)



花と鶉（ひよどり）図案の大花瓶

明治13年 河井重蔵購入

支那製

(掛川市教育委員会 蔵)



灰皿

中央にたばこ入れがある

銅製のしゃれた灰皿

(掛川市教育委員会 蔵)



記念メダル

二宮尊徳生誕200年記念

(掛川市教育委員会 蔵)



『河井弥八の愛用品』

河井弥八氏の愛用品

万年筆
硯箱
懐中時計
めがね
拡大鏡

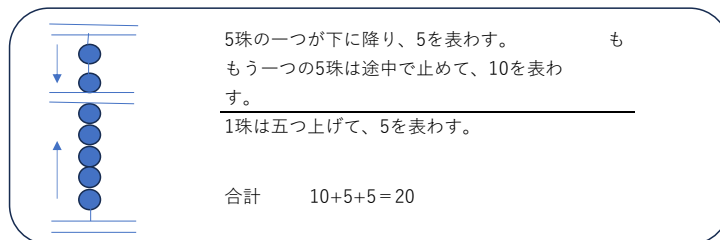


河井家に残る 七つ珠(玉)そろばん

江戸時代、商家や庄屋の家では、そろばんは必需品であった。河井家は、荒物屋をしていたこともあり、庄屋を務めた家でもあったので、現在では珍しい、「七つ珠(玉)そろばん」が使用されていた。金銭や長さ、容積、重さなどの計算に使われていた。

現在のそろばんは、梁の上の5珠は一つ、下の1の珠は四つになっているが、江戸時代のそろばんは、梁の上の5珠は二つ、下の1の珠は五つになっている。

七つ珠(玉)そろばんの 数の表し方は、例、下図の(20を表わす)場合



(掛川市 所蔵)